

文章らくに書けるよ

・ ・ 短いものから ・ ・

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問 教育アドバイザー
張江 幸男

滞在期間の長短にかかわらず、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

【1】アツと驚くタメ五郎

30 年も前のことだ。テレビから生まれたこのフレーズが大ブレイクしたことがある。ある土曜日の午後、職員室で談笑していると。国語の佐藤先生が突然大きな声で「アツと驚くタメ五郎」と唸った。話によると、いままで作文が大の苦手だった翔太君が素晴らしい作文を書いたということだった。

私はニンマリとした。中学 3 年生のあるクラスで、先生が急病になったので、教頭だった私が出掛けた。特に課題はないということで「俳句」を作らせることにした。細かな手順は別の機会に譲るとして、生徒は気軽にたくさん句をつくった。爾来、行事のある度に全生徒に俳句を作らせた、全作品をプリントして配布し、良い作品は色紙に書いて表彰した。

ニンマリしたのは、中学 2 年生まで国語が大嫌いで、作文では何を書いてよいかわからなかった翔太君。最近の俳句で見せる素晴らしい感性や、言葉を選ぶ努力に感心していたからです。短詩形（俳句・短歌・詩）に慣れて、作品を沢山作る人は、文章も書けるようになると、今までの経験から確信していたからです。最近、この私の考えを証明してくれたテレビ番組があったのは驚きでした。

【2】[ようこそ先輩] の渡辺淳一さん

NHK の番組で「ようこそ先輩」という番組がある。文字通り、各界で活躍している方が、自分の母校で授業をする番組である。親や、教師にとってとても参考になることが多い番組です。渡辺さんはこの体験を某週刊誌に発表しました。以下、6 年生のクラスで行った授業を、順に紹介していきましょう。

(1) テーマ「文章で自分を表現しよう」

いくつになっても文章で表現することは重要である。たとえば言葉では言えても、文章で表わせなければ、より多くの人に自分の気持ちを伝えることはできない。

よし、このコツを教えてやろう。

(2) 五・七・五で

文章で表現する。このコツを体得するために、まず大切なことは「やればできる」と思わせることである。書いて表現することは難しそう。と思い込んでいる人が多いが、実はきわめてやさしいのである。

そこでまず短い文章、五・七・五で表現してもらうことにする。

えっ、それじゃ俳句で、ますます難しいじゃない。と思う人も多いかもしれないが、日本語はほとんど五文字か七文字の区切りで表わすことができる。しかも最後の五の句を決めておくと、更に書きやすい。

授業では、この結句をまず「ありがとう」と「うれしいな」の二句に絞り、初めは自分の身のまわり、お母さんや家族のこと、さらに最近、自分が体験したことなどをテーマにまとめることにする。

すると、できたことできたこと。あっという間に俳句の山というか、文章が出来上がってくるではないか。

その一部を紹介すると、

「おばあちゃん、ゲームをくれてありがとう」

「はらへった、給食出たらうれしいな」

「中一で、レギュラーなれたらうれしいな」

これらが一人一句どころか、三句も五句も、なかには十句近くつくった子もつくった来もいるのだから驚き。

とにかく、子供の頭はナイフで柔軟。やる気にさせるとすぐできる。

(3) 結句を決める

そこで今度は、一歩すすんでより俳句的なものに、チャレンジしてもらうことにする。

ここでも、結句が決まっているとつくり易いので、最後の句は「雪とける」と「春近し」にする。

するとお見事。たちまち次の句などでできあがる。

「窓開ける、春風吹いて雪とける」

「中学校、不安とドキドキ春近し」